

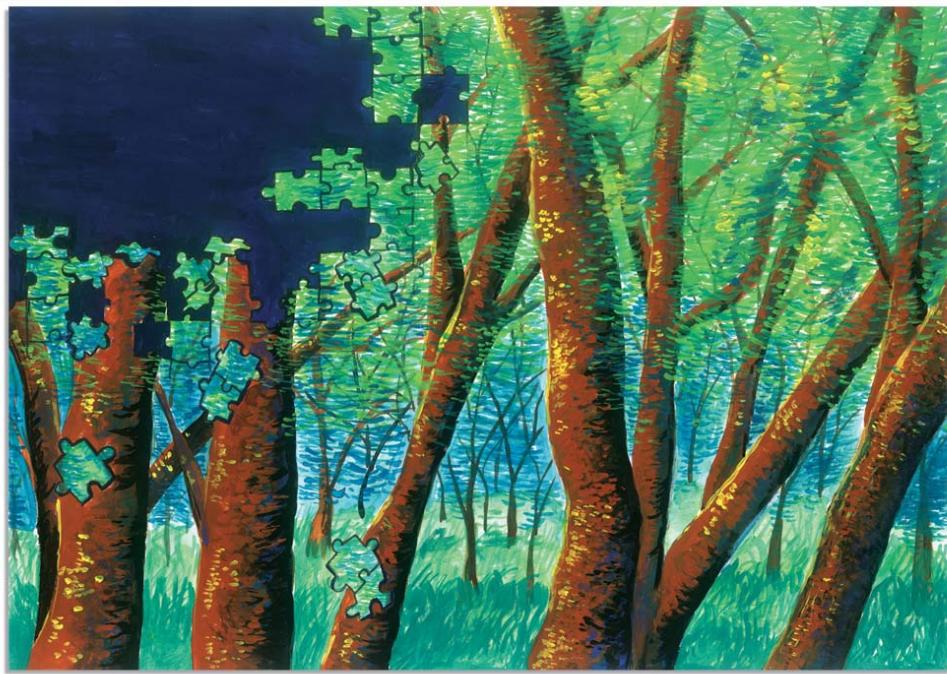


今号も基金のこどもたちから、「エコ活動」に関する投稿がたくさんあるよ!

※「ECOKO」とは環境問題を考えることも達、Ecology+Kodomoの造語です。



# 崩れていいく自然のパズル 現実を実感して環境を守ろう



イラスト・西川 武志

※夢美術館はこどもの感動や夢を展示する仮想美術館です。



この絵は自然のパズルが崩れていっているところを描いています。地球上の自然もこのパズルのようになくなっています。自然の景色はけっこうきれいに描けたと思いますが、パズルが崩れていっている様子はどうでも難しくて苦労しました。

西川 武志  
大阪府  
松原第三中学校3年  
第12・13・14回生



## 「夢みるこども基金」のホームページが新しくなりました。

リニューアルしてサイトが見やすくなりました。「環境こども新聞・エココ」の投稿がホームページからも出来るようになっています。ホームページの内容は次の通りです。

- 1 基金の活動を分かりやすくカテゴリー分けしました  
●社会福祉活動 ●環境保護活動 ●海外教育支援活動 ●海外医療支援活動
- 2 個々の活動を細分化して掲載、それぞれの最新情報を更新しやすくなりました。
- 3 「環境こども新聞・エココ」の投稿がホームページから出来るようになりました。
- 4 「夢みるこども基金」より「エココ」がホームページ上で読めるようになりました。

その他、新着情報も随時更新していきます。

「夢みるこども基金」のホームページは下記アドレスからご覧下さい

URL:<http://www.yumemirukodomo.jp>



Webでの検索は  検索

今すぐ Click!

歯医者さんありがとう!私たちのキャンペーンは歯科医院  
などから提供していただいた金属冠で支えられています。

# 森の循環 人の循環

森林を  
守る  
シリーズ2

日本の美しい森を  
守るには、全国の  
「人の力」が必要

岡部 憲和  
東京都・東京大学  
教育学部付属  
中等教育学校 6 年  
第 10・11・12 回生



「ここはいい森だ。いい杉がたくさん植わっている。でも、昔と比べて森に入る人は減ったよ。昔は、杉の木一本売るだけで秋田から東京まで行ってさ、一晩酒飲んで帰つて来られた。それが今は一本千円にも満たない

次いで、関東北部にある群馬県上原の森。ここには『お化けの森』と呼ばれる森があります。

「ここは木を植えた後、人が何もかまわなかつた森が何もかまわなかつた森が多すぎて太陽の光が当たらぬ。ひよろひよろとした弱そうな木がたくさん生えているでしょ。人が手

日本の美しい森を守るには、日本全国の人の力が必要



升田茉路  
福岡・与原小学  
第15回生



# ふたつのベッド

## ～ゴザと廢品ソファ～

# 『地球環境を守る日』 を実践する

「ひとつめのべ」  
第1回

岡部 達美  
東京都・  
東京都立  
田柄高校1年  
第13・14回生

岡部 達美  
東京都・  
東京都立  
田柄高校1年  
第13・14回生

ゴミが生活の基軸となりました。私は考えがあつたので、『地球環境を守る日』を実践するうえで、夏の暑さをさうでした。そこで私はソファーを私に貰いませんでした。父の喜びようはありません。まず、床より離れている寒さに私たちを直面させることになります。そんな場所に畳よりソファーで眠る方やぐっすり眠ることが出来るはずです。問題は寝返方が仰向きに休むより好です。ソファーの狭い面では畠より冷気や湿気を感じます。冬の寒さは非常に辛いもので、冬の寒さは非常に辛いものです。特に寝る時、電気毛布を暖めながら、ソファーと並んで寝ます。一方が仰向きに休むより好です。ソファーの狭い面では畠より冷気や湿気を感じます。冬の寒さは非常に辛いものです。特に寝る時、電気毛布を暖めながら、ソファーと並んで寝ます。どちらも寝心地が悪いのです。しかし、私は横向き寝ます。なぜなら、間違いなく横寝に寝返るのです。問題は寝返の多さ。狭い面積で出来ることもあります。ただ、布団はベッドと比べると極端に幅が狭く、慣れるまではけ布団がズルズル落ちてしまい、寒い思いをなつてしまい、背中は痛くなりました。さらに、ソファーとソファーのベッドと比べると極端に幅が狭く、慣れるまでは寝返の多さ。狭い面積で出来ることもあります。ただ、布団はベッドと比べると極端に幅が狭く、慣れるまでは寝返の多さ。狭い面積で出来ることもありました。さて、ただ、慣れとは不思議なもので寝返りが十分できるのです。総合してみると、布団は段違いにぐり眠ることが出来ました。疑似ベッドの効用は私

(注) 番メーカー(福岡県)株式会社、イケヒコ・コーポレーションの説明より。

**木は大切な人、友達です  
こどもたちと一緒に  
環境問題に取り組む**

「木に恋した人」

今号の環境インタービューは夢みる「」ども基金のOGでもある小説家・アーチスト、沙真（さちか）さんです。沙真さんは第15回夢みる「」

もキャンベーンの「ことわく会議」の時に、小説デビュー作である『私は一本の木に恋をした』を僕達に持つて来てくれました。早速本を手にした僕は、主人公の「れい」が、いつの間にか沙真さんのイメージになっていました。自然、森そして鳥を愛し、自然環境を真剣に考えていらっしゃる沙真さんに、夢みることも基金の先輩としても、僕達の活動にアドバイスをいただけたら、とインタビューやをお願いしました。

堀江：こんちは。今日は僕達夢みることも基金のOGであり、現在、自然環境保護活動をされている、という点でも先輩にあたる沙真さんに、お話を聞けるというのを楽しみにして来ました。

早速ですか環境問題に目を向けるきっかけは何でしたか？

**沙真：**環境問題にこだわっているわけではないのですが、幼少の頃から「離島に本を送ろう・日本の島425プロジェクト」のボランティア活動に参加していました。それが平成10年10月10日に「島の日」として宣言し、それ以来毎年、竹富島・石垣島・姫島・相島・玄界島などたくさんの中の島に渡り、本の読み聞かせなど活動をしてきました。その中で、島の人たちとの出会いや島の自然に触れる事が出来ました。すると、島では人間と自然が一体化しているということに気付きました。



環境問題について熱く語り合った沙真さん(左)と堀江くん

作家活動を続ける  
夢みるこども基金の先輩  
平松沙真さんにお話を聞きました



堀江 健一郎  
福岡県・城南中学校3年  
第14・15回生

**沙真**：人間の生活が、自然から離れていったことが、最大の原因だと思います。住む家を見てもマンションが増えました。昔は、家が木から造られていた。だから住んでいると、家から季節感や自然の変化が伝わってきました。今、何かが崩れだしているよう思います。

えなのかも知れないと思います。自転車に吹きつける風は冷たかつたけれど、僕の心はボカボカで帰路につきました。



## 環境展示会を見学 「エコプロダクツ2009」



中原 隆世  
埼玉県・黒浜中学校2年  
第14回生

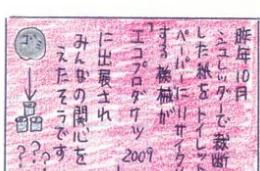
校外学習・環境学習で、お台場の東京ビックサイトであつた環境展示会「エコプロダクツ2009」に行つた。野球のドームがいくつ入るんだろうと思われるような広い会場に、全国から21の団体・企業が出展、18万人以上が見学に訪れた。会社関係の人たちはもちろん、中小学生もたくさん来ていた。環境への関心の高さが、すごい熱気だ。展示は太陽光発電

茶の出がらしで紙を作つたり、使用済みのプリンターカートリッジを回収して再生したり、とても面白いな、と思わせる展示もあつた。大企業ばかりが目立つ中で、聞いたことがないたくさんの会社の、小さなブースが気になつた。廃材再生による再資源化、污水を簡単につかう機械など、社長さんらしき人が自分の会社の技術を

熱く語りかけていた。  
政府の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)25%削減という目標には画期的な技術開発が必要だ。これからこの業界は大変な競争になるのだろう。環境に役立つ素晴らしい製品で、この中から何十品で、年後かに世界的企业が出てくるかもしれない。



須井 悠介  
大阪府・松原中学校1年  
第15回生



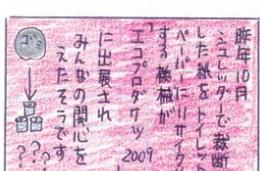
須井 悠介  
大阪府・松原中学校1年  
第15回生



須井 悠介  
大阪府・松原中学校1年  
第15回生



須井 悠介  
大阪府・松原中学校1年  
第15回生



須井 悠介  
大阪府・松原中学校1年  
第15回生



家族で繰り広げるスローライフ  
自分にできることを行動に！

環境の輪を広げていくことが大事、それを気付かせてくれたのが「ハチドリ」の民話



まず最初に、家の前の河川を弟と二人で掃除しました、すると隣の家の兄妹も参加するようになり、環境レスキュー隊を発足しました

され、私は環境親善大使としてスウェーデンを訪問しました。環境問題が世界的なレベルであることを痛感しここで得た全てを一人でも多くの人に伝えようと、さらにハチドリ計画の作戦を練ることにしました。この頃からエコクラブも毎週日曜日に活動し、川掃除の他、町や登山清掃に加え学習会を開き、環境新聞や絵本を作り、児童期の子どもたちも理解できる工夫をしました。また、環境フェスティバルや会議、弁論大会などにも積極的に参加するようになると、工

あとがき  
私たちの新聞の力で  
環境を守りましょう

堀江 健一郎  
福岡県・城南中学校3年 第14・15回生

## 頼もしい仲間たちの協力

さて、2010年幕開け第5号ECOkoをどのように感じ、受けとめて頂けるのでしょうか。

2008年10月に創刊号を発行して以来、寄せられるイラスト・投稿も増えてきているようです。僕達『夢みるこども基金OB・OG会』では今年も、年4回程の発行を予定しています。ひとりひとりが、地球環境について考え、行動し、それを記事やイラスト・漫画にして送ってくれます。みんなが一同期に会するのが難しいのが現実。だからこそ、この「環境こども新聞・ECOKo」が生きてくるのです。それぞれの行っている活動や意見を発表する場です。OB・OG会の中原さんは毎回『隆世のエコ生活』で自分の生活の中で環境問題に関する考え方や工夫を書いてくれます。また、エコファミリーの代表とも言える岡部さん兄妹も自分達の活動、体験をいつも投稿して下さいます。そして、今回僕が取材させて頂いた平松沙真（さちか）さんも、形は違つても目指すものは僕達と一緒にです。

今年はいよいよ『夢みるこども基金の森』づくりが実現します。2年前にこども会議で「地球環境を守ろう！」と話し合ったことが1つ1つ実行に移されています。でも、まだまだ始まったばかりです。前進し続ける為にも、是非皆さんのパワーを寄せて下さい。

◎おことわり：この新聞はこどもたちの原文に基づいて作成しています。一部には筆者の事実誤認などがあるかもしれませんのが、地球温暖化防止・環境保護に取り組むこどもたちの熱意と努力を読み取って頂きたいと思います。

● 投稿・問い合わせ先 ● 夢みるこども基金事務局

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2F ☎092-751-0021  
e-mail : jimukyoku@yumemirukodomo.jp FAX 092-751-0249  
URL : <http://www.yumemirukodomo.jp>

A cartoon illustration of a yellow tooth character with a red star on top of its head. The tooth has a smiling face and is wearing small blue gloves.

「環境こども新聞・ECOko」への投稿待ってるよ

**環境も  
新ごとく** ECOKO エココ

「ECOko」とは  
環境問題を考えることも達  
Ecology+Kodomoの  
造語です

環境  
環境とともに新聞・エコ  
「」も手を発した。基金のOB  
O・OG会員はもちろん、それ以外のこ  
ともたちも新聞づくりに参加  
わって来ていますが、「」が出来ました。  
環境についての意見などを  
らんなでも新聞でやる  
うなことの積み重ねがね  
地球を守る力になると  
います。絵、イラスト、ト  
画はカラーワーにお願いす  
。投稿者の氏名、所  
（小、中、高校名、年  
住所、連絡先を明記して  
顔写真を付けて基金事務局  
へ送って下さい。原稿  
写真は基金の木一ムハ  
ジからも投稿できます。  
絵、イラスト、漫画は郵  
送でお願いします。社会  
人の手で結構です。  
環境」にも新聞・エ  
コ」は年4回の発行  
を予定していますので  
隨時受け付けています。